

FROM CAMPANA FACTORY

CampanaTree (カンパーナトゥリー)では木の温もり、自然の安らぎを感じさせる
そんなカホンを製作しています。私達の作るカホンがプロ演奏家のライブを始め
趣味の演奏でもオーディエンスは元より演奏者も一体となって
幸せな気持ちになれたら幸いです。

● CAMPANA TREE

・シェルには杉材を採用

本体のシェルには福井県産材の杉を使用。独自の工夫で杉の欠点である反りと響きにくさを抑えました。独特の温もりのある鳴りと、美しい木目が特徴です。

・ポリカーボネイト・ヘッド

越前和紙をフィーチャーした象徴的なルックス。カンパーナカホンの打面にはポリカーボネイトが使われています。この打面が作り出す独特の優しくセンチメンティブな音は色々なジャンルの音楽に溶け込みブラシワークにも対応でき、また、打面の端を浮かしたことでハジレの良いスラップサウンドを得ることができます。打面は半透明なので箱の内部から電球を取りつければ、暗い照明の中で強烈な存在感を發揮します。

・リバーブレーション・ボックス

箱の内部に独自の構造を採用し音を増幅させました。アコースティックギターに使われるブレイシングや日本古来の楽器である琴からヒントを得ています。

・エッジ加工

打面と箱が触れる部分を削りとり、よりよい打面の振動を得られるよう工夫されています。この加工は、ドラムのエッジ加工からヒントを得ました。

・ベル型ホールカット

鈴をイメージしたホールカット。この位置にホールカットを持ってきたことで、部分的にくびれていることで、サステインを伸ばしました。

・響き線

響き線は真直ぐに配置しました。プラスドライバーで響き線を調整でき、左右で違うテンションにすることも可能。

・べんがらウレタンクリア仕上げと生地ウレタンクリアフィニッシュ

仕上げには 日本に古くから伝わるべんがら下地のウレタンクリアフィニッシュと、木目が映える生地ウレタンクリアフィニッシュがあります。

・福井在住の職人による手作り

熟練した宮大工職人による手作り。



● ARTIST COMMENTS

・音楽をベースから創り出せる魔法の箱！

子ども達の音楽教育にとって、ベースとなる大切なコトはリズム教育だと考えています。自分の気持ち、自分のエネルギーをリズムで表現し、仲間とリズムを重ねていく喜びは、子ども達にとって心を育てる大切な経験となっていきます。このカンパーナ・カホンは手で触れた時の感触が気持ち良く、指先のニュアンスや叩く場所によって、繊細に且つ心地よい良質な音で応えてくれるので、子ども達の心をしかと捉えています。

「イスなんに、いろんな楽器の音がする魔法の箱やあ〜」と大人気！！不思議と日本の唱歌にも溶け合うまさに「日本の音」がします。カンパーナカホンを音楽室にいつもさりげなく置いておき、ノッて来たときに自分も子ども達もまるで上質な手拍子のように自然とリズムを奏でる、そんな授業を展開していきたいと夢を掲げているところです。(金沢市内小学校 音楽専科教諭・音楽教育学修士 久野恭子)

・打楽器観

このカホンは僕の打楽器観を変えました。軽快に高く鳴り響く高音、コンパクトにまとまった安定感のある低音、そして従来のカホンには決して出せない足ミュート音。全ての音が個性的なカホンだと思います。ビジュアル面でも大変美しく、面白いです。このカホンはどのジャンルにも安定して適応できる力を備えていると思います。(パーカッションスト 上坂朋也)

・カホンという楽器の可能性

打楽器は世界最古の楽器だといわれています。カホンが生まれたのは空き箱を叩いて音楽を楽しんだのがきっかけで、「音楽が好き」だということが原点だということでも原始的な楽器。1970年代にフラメンコギタリストのパコ・デ・ルシアによってフラメンコの世界に持ち込まれ、音楽と共に世界中に広がっていきました。現在日本国内ではメジャーアーティストのコンサートもとより様々なシーンで活躍しているカホン。そのカホンを福井産の杉の木で作るといふ試みに興味を抱きました。温かみのあるサウンドを持っており、従来のものと比べられないような個性的な一面は音だけでなくビジュアルでも、あんどんのように光るカホンの姿はそれだけでもステージの温度を上げそうです。まだまだ進化しそうなこのカホンから目が離せません。(ドラマー JUN. 田崎)

・日本らしいカホン

発売前から開発に関わらせていただきました。最初に企画を聞いたときは一体どんなものが出来るのか期待と不安がありましたが、結果的にこのカホンにしか出ない音が出るようになり、満足しています。杉は柔らかく、それが音の丸さに繋がっています。今までカホンといえば、フラメンコではバッチリでも、普通のポップスなどでは存在感がありすぎてアンサンブルのなかで浮いてしまう気がしていたのですが、このカホンはどんな音楽にも溶け込む「実用的」な音です。その優しく美しく、個性的でいて控えめな音はまさに日本らしい音。また、打面に使われている和紙ポリカーボネイトヘッドは杉との相性が非常に良く、新しいカホンの音を作り出していると思います。何より杉無垢板単板を使っているため、ベニヤのカホンより木目がはるかに美しく木との会話も出来るため、演奏するのがとても楽しいカホンです。(打楽器奏者・ドラムテック 上坂朋佑)